『青少年のための管弦楽入門』におけるアプローチ法の比較
～海外のオーケストラによる子どものための演奏会から～

加　納　暁　子
（長崎大学大学院教育学研究科）

Comparison of the approach in “The Young Person’s Guide to the Orchestra”
－From the concerts of foreign orchestras for the children－

Akiko KANO

はじめに

イギリスの作曲家，ベンジャミン・ブリテン（1913～1976）が1945年に作曲した『青少年のための管弦楽入門～パーセルの主題による変奏曲とフーガ～作品34』[1]は，作品名の通り，子どもたちにオーケストラの楽器を紹介していく優れた作品である。同じくイギリスの作曲家，ヘンリー・パーセル（1659～1695）の主題[2]を用いて，曲の冒頭は主題の提示がなされ，次にオーケストラで用いられる楽器が順番に変奏によって紹介され，再びブリテンの主題とパーセルの主題による二重フーガにより，壮大なコーダによって曲が締めくくられる構成となっている。筆者もオーケストラのヴァイオリン奏者として，何度もこの曲は演奏してきており，子どもたちの前で演奏すればとても素晴らしい体験となるであろうし，教科書の教材として取り上げられても価値のある作品であると思う。本稿では，アメリカのニューヨーク・フィルハーモニック，及びイギリスのロンドン・フィルハーモニー管弦楽団の子どものための演奏会より，同作品へのアプローチ法や指導の内容について比較を行い，プロの音楽家がどのように子どもたちへ音楽を教え伝えようとしているのかについて明らかにしていく。

１．ニューヨーク・フィルハーモニックによる実践

ニューヨーク・フィルハーモニックでは，ブリテンの作品を扱った子どものためのスクールコンサートを2014年１月に行っている。このコンサートは学校やクラス単位で子どもたちがコンサートホールに出向く形式であり，同じプログラムを小学生対象と中学生・高校生対象に分けて演奏する。プログラムの構成は，「ブリテン作曲『青少年のための管弦楽入門』，『４つの海の間奏曲』から「日曜日の朝」と「嵐」，Young Composers』である。特筆する点は，約２ヵ月前に学校の教師がオーケストラ団員によるワークショップを受け，事前に児童，生徒に授業を行ってからコンサートの鑑賞に臨むという点である。教師用の指導ガイド[3]をもとに，どのようなアプローチがなされているかを見ていく。

UNIT１　ベンジャミン・ブリテンはどのような人だろう？

まず，ブリテンの基本情報として，100年前の1913年にイギリスで生まれたこと，６歳で作曲を始め，学生時代は寄宿学校で寂しい思いをしたこと，戦争を嫌悪し平和主義者であったことが紹介されている。その後，小学生用と中学生・高校生用に分けて，それぞれ課題が提示されている。小学生への課題は，イギリスについて調べたり，日本の原爆に関する本[4)]が紹介され，環境を変えていくためにどのような行動が出来るのかを話し合う。また，中学生・高校生への課題は，演奏会のプログラム後半で演奏されるブリテンが作曲した『４つの海の間奏曲　作品33a』に関連する課題が提示されている。同作品は漁師ピーター・グライムズ（Peter Grimes）の話に基づいており，ブリテンはどうしてこの話に心を惹かれたのか，また，他のイギリスの作曲家やポピュラー音楽家について調べる。

UNIT２　オーケストラの探究

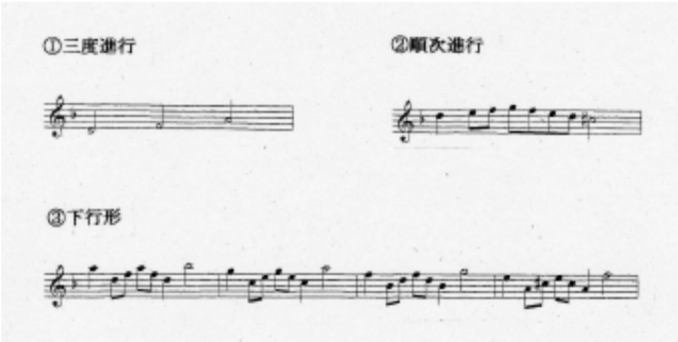
まず，オーケストラは金管楽器，木管楽器，打楽器，弦楽器のセクションから成ることを知り，それぞれについて形容詞で言い表してみる。（例：金管楽器は強い，王者のよう）ここで小学生への課題として「オーケストラ壁画」を作らせ，それを下級生のクラスへ持っていき説明するといった興味深い活動が紹介されている。次に，教室内にある打楽器について音の特徴について気づいたことをまとめる。中学生・高校生に対する課題は，打楽器に限定せず，教室内にある様々な楽器について特徴を記述する。その後，ブリテンの『青少年のための管弦楽入門』の鑑賞活動に入る。まず，主題が提示された後の，各楽器による変奏について探究する。「ピッコロ・フルート」「オーボエ」「クラリネット」「バスーン」「ヴァイオリン」「ヴィオラ」「チェロ」「コントラバス」「ハープ」「ホルン」「トランペット」「トロンボーン・チューバ」「打楽器」の順に各々の楽器の雰囲気を生かした曲で紹介されるため，それぞれの音や曲の特徴について記述する。

UNIT３ テーマと変奏曲

テーマについて

まず，テーマの原曲であるヘンリー・パーセルのテーマを聴く。このテーマは，①三度進行，②順次進行，③下行形という３つの特徴から成り（譜例１），歌う，ハミング，手拍子をするといった活動を通して，このテーマに馴染む。

譜例１



パーセルの原曲の主題は，弦楽器のみで演奏されるため，次に，オーケストラで演奏されるブリテンのテーマとパーセルのテーマの違いを聴取する。その際，小学生に対してはブリテンの100歳を祝うバースデーケーキを想像させ，どのようなトッピングで飾り付けされているのかに気づかせる。一方，中学生・高校生に対しては，使用楽器，フレーズ，テンポ，全体的な印象から，根拠を挙げながらその違いに気づかせるというアプローチを取っている。

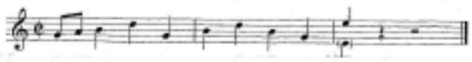
その後，３つの特徴がテーマの変奏によってどのように変化していくのかを聴き取る。弦楽器（冒頭テーマ内）の変奏では，①三度進行が短調で入ったのち，③下行形が高弦は上行，低弦は下行していき音域が離れていく。オーボエの変奏は①三度進行から新しい音に到達し，②順次進行の後，③下行形が２本のオーボエによって応答形式で演奏されるといった聴取の指針が示されている。

フーガについて

ブリテンの作品では，各楽器による変奏の後，フーガのセクションに入る。フーガについて子どもたちが知っている “Row Row Row your Boat”（ボートを漕ごう）が挙げられ，同じメロディーを他のグループが遅れて入って追いかけていく輪唱形式について説明がなされている。その後，ブリテンのテーマの３つの特徴を使用した旋律を手拍子で叩きながらフーガを体験する。

体験した後，フーガの鑑賞に入るが，まずフーガの旋律（譜例２）についてハミングや旋律に合わせて動いたり，リコーダーで演奏する活動を通して覚える。そして，フーガの旋律が聴こえたら楽器を当て，楽器が出てくる順番を確認する。（楽器がフーガに加わっていく順番は，各楽器の変奏による楽器紹介の部分と同じである。）最後は全楽器によるフーガの旋律に最初の主題が重なり合った総奏を聴取する。

譜例２



Young Composers

ブリテンについて予習するだけでなく，コンサート当日と連動した課題が提示されている。課題の内容はよく知られた “Happy Birthday to You” の変奏曲を作曲するもので，応募があった中からいくつか作品を選び，コンサート当日 “Young Composers” のコーナーで披露される。作曲する際の注意点として，以下の項目が挙げられている。

・クラスでリコーダーや打楽器を使って，歌をオーケストレーションする。
・テンポ，強弱，音域を変化させる。
・ある部分を繰り返したり，順序を混ぜたりする。
・異なった雰囲気を作り出してみる。（例えば，おっかない誕生日や感動的な誕生日など）
・ある部分を選んで演奏する。

上記の５項目に限らず，オリジナルの変奏手法も可能とされている。

UNIT４　４つの海の間奏曲

『青少年のための管弦楽入門』の後，『４つの海の間奏曲』が演奏される。この曲は，第１曲「夜明け」（Dawn），第２曲「日曜日の朝」（Sunday Morning），第３曲「月光」（Moonlight），第４曲「嵐」（Storm）から成り，演奏会では「日曜日の朝」と「嵐」が取り上げられている。まず導入として，ブリテンの生涯を振り返り，一時期祖国を離れアメリカに渡りホームシックになったことや，戦争反対主義者であったことを思い起こす。そして，いろいろなものが混ざった複雑な感情について考えるため，正反対の言葉をブレインストーミングをしながら挙げていき，例えば喜びと悲しみが混ざった感情はどのようなときに感じるのか考える。

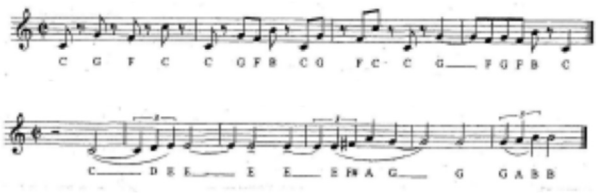
次に，その複雑な感情は，音楽によってどのように表現されるか話し合う。例として，以下の項目が挙げられている。

・雰囲気が予測できないほど変わる　・明るい音と暗い音　・強弱が急に変わる
・同時に２つの異なる旋律が響く　・異なるリズムやテンポが層になる
・異なる楽器が混ざる　・２つの異なるイメージや空間が喚起される

具体的に第１曲「夜明け」では，ヴァイオリンによる高音は海の静寂さ，金管楽器の重厚な響きは悪い予兆を感じさせるが，この２つの異なる要素を聴き，複雑な感情と関連させて話し合いを行う。

この対比は第２曲「日曜日の朝」においても現れる。第１主題は，木管楽器やヴァイオリンによって弾むような陽気な旋律が演奏される一方，第２主題は順次進行を主とした滑らかな上行形の旋律である（譜例３）。第１主題は日曜日の朝，村人が教会に行き，海は太陽の光がキラキラ反射している様子を描写している。第２主題は主人公，ピーター・グライムズの疑惑と自死を暗示している[5]。

譜例３（上段：第１主題，下段：第２主題）



第４曲「嵐」は標題の通り激しい嵐の様子を描写しているが，終盤，一瞬静かになり曲調が明るくなる箇所がある。明るい部分と嵐の暗い部分を比較し，それぞれどのような楽器が使用されその表現法によって生まれるイメージについて比較を行う。

対比をテーマに『４つの海の間奏曲』について説明されてきたが，応用として課題が出されている。小学生を対象とした課題では，ブリテンがカラヴァッジョ[6]の絵画を収集していたため，明暗のコントラストを用いた「キアロスクーロ」の技法から絵画を鑑賞し，その全体的な効果，ブリテンのオーケストラの手法，混乱した感情とのつながりについて考える。また中学生・高校生を対象とした課題は，嵐が描写されている他の楽曲について鑑賞する。例として，ベートーヴェン作曲：交響曲第６番「田園」より第４楽章，ベルリ

オーズ作曲：オペラ「トロイアの人々」，メンデルスゾーン作曲：序曲「フィンガルの洞窟」，ロッシーニ作曲：序曲「ウィリアム・テル」，リヒャルト・シュトラウス作曲「アルプス交響曲」より雷，嵐，下山，ヴィヴァルディ作曲：ヴァイオリン協奏曲集『四季』より「夏」の第３楽章が挙げられている。それぞれの場面の効果について話しあい，ブリテンの嵐の音楽は，荒れる海やピーター・グライムズの内的な葛藤をどのように表現しているかについて話し合う。

２．ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団による実践

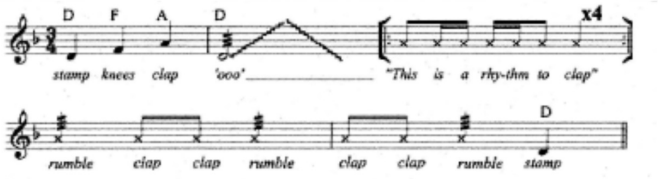
ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団によるＫ２（７～11歳）向けのブリテンの作品を扱ったコンサートについて見ていく。2019年５月に行われ，プログラムは「ブリテン作曲『青少年のための管弦楽入門』，『４つの海の間奏曲』より「夜明け」，「月光」，「嵐」，全員で歌うコーナー」である。ニューヨーク・フィルハーモニックと同様に，予め学校の教師がワークショップを受け，その内容を子どもたちに指導した上で，コンサートを聴く設定になっている。教師用の指導ガイド[7]をもとに，どのような内容を指導しているのかを概観する。

Classroom Project １ :主題と変奏曲

まず，ブリテンの『青少年のための管弦楽入門』の主題８小節を３段階に分けて覚える。最初からブリテンの実際の主題を演奏するのではなく，音楽が得意ではない子どもも楽しく参加できるように，簡単なステップから主題に慣れ親しむように工夫されている。

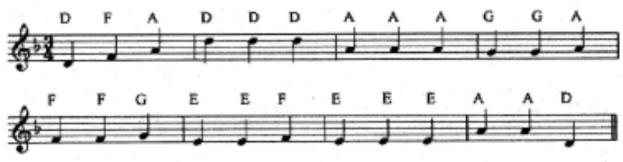
・簡単：打楽器，ボディーパーカッション，声，演奏初心者
足踏み（stamp），膝を叩く（knees），手拍子（clap）から始まり，２小節目の細かいパッセージは「オー」という声で上行，下行の旋律を表している。×は手拍子，rumble は低い声で唸ると思われる。（譜例４）

譜例４

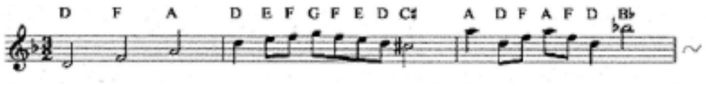


・単純なメロディー：演奏初心者，シロフォンの白鍵で（譜例５）

譜例５



・難しい：ブリテンの実際の主題（任意の楽器で）（譜例６）
譜例６



主題が理解できたら，次に，クラスで変奏曲を考える。初めはブリテンの主題は変えずに（譜例４，譜例５のように）少し工夫する。その後，小グループに分かれて，変奏曲を創作する。具体例としてはオスティナートや対旋律，異なる楽器で演奏，リズムは同じで音を変える，音は同じでリズムを変えるなどの手法が紹介されている。その後，変奏曲を持ち寄ってつなげて演奏する。

更に応用として，ブリテンの楽曲の最後に，フーガによる変奏曲があることを紹介し，フーガを体験する活動についても推奨されている。最初の音（D，F，A）を決め，拍を一定にするという条件のもとで，先に創作した変奏曲のパーツをフーガにする。その際，最初と最後のパーツを決め，順番に演奏することでフーガの形式を体験する。

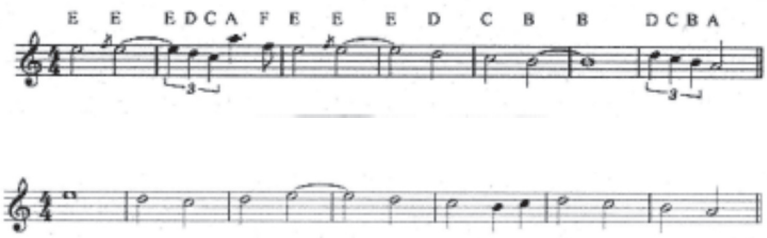
Classroom Project ２：夜明けの海

早朝の穏やかな海を表した音楽があることを説明し，その光景について想像してみる。その夜明けの穏やかな海を表すために３つの音楽の要素について説明する。

・人気のない海辺

ブリテンは臨時記号のない音を順次進行で使い，とてもゆっくり且つ静かに海辺を表現している（上段）。この旋律を単純化したもの（下段）を，グロッケンシュピールやチャイムバー，あるいはシンバルやベルを使って，海辺がかすかに光る様子を表現する（譜例７）。

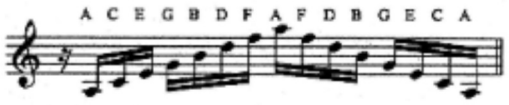
譜例７



・流れる波

ブリテンは３度間隔の音の上行，下行形により，波の様子を表している（譜例８）。シロフォンを使って，この音型を演奏したり，楽器が十分にない場合は，シェイカーやタンバリンで強弱を変化させて波を表してみる。

譜例８



・破滅の予感

海は時に恐ろしい。ブリテンは低音の和音を鳴り響かせることによって表現している。児童もこの複雑な印象を，ドラムやバスバー（オルフ楽器）を用いて，低く鳴り響く音を再現させる。

クラスを３つのグループに分け，上記の３つの要素を自分たちなりに工夫や変奏を加えながら演奏する。各グループが，それぞれの情景を表せているか聴き合った後，３つのパーツをつなぎ合わせて演奏する。ブリテンは楽曲中，この３つの要素を順番に提示し，重ね合わせてはいないため，クラスでも順番に演奏していく。この海の作品はオンラインに投稿し共有できるようになっている。

The Song “Heave Ho！”

コンサートの最後にオーケストラの伴奏で歌を歌う活動が組まれている。タイトルは“Heave Ho！”(「よいと巻け！」：錨を引き上げるときなどの掛け声）であり，このコンサートを企画している Rachel Leach 氏の作詞，作曲によるオリジナルの楽曲である。曲調としては，無調の現代的な曲想であり，海を想起させ伴奏型にはブリテンの流れる波の音型を模している。ブリテンの『４つの海の間奏曲』と関連させた，海に関する歌であり，コンサートの前に，クラスで練習して歌えるようになっていることが求められている。

まとめ

ニューヨーク・フィルハーモニックとロンドン・フィルハーモニー管弦楽団の子どものための演奏会において，ベンジャミン・ブリテンを扱ったプログラムを概観してきたが，扱っている曲，及びコンサート当日，全員で共有できるプロジェクトが組まれている点は同じであった。また，コンサートの前に，事前に学校の教師に対してワークショップを行い，児童・生徒に様々な活動を課して準備させる点においても同様である。

『青少年のための管弦楽入門』では，各楽器の特徴を聴き取ることに加えて，テーマとフーガという形式についても学習させている。テーマを構成する３つの要素（三度進行，順次進行，下行形）について理解させ，歌う，手拍子の活動を通して定着を図り，加えてロンドン・フィルハーモニー管弦楽団は変奏曲を作らせる。フーガについてもその構造について子どもがよく知っている歌を用いて理解させ，ニューヨーク・フィルハーモニックではリコーダーでブリテンのフーガ主題を演奏することも試みている。ニューヨーク・フィルハーモニックではブリテンの生誕100年と変奏曲との繋がりで，“Happy Birthday to you” の変奏曲を創作させ，優れた作品は当日オーケストラの演奏によって共有される。子どもにとっては，大変身近でよく歌い慣れた曲であり，学校では再現できないよう

なオーケストラのサウンドによって自らの作品が演奏されることは喜びでもある。

『４つの海の間奏曲』は大人を対象とした演奏会においても，あまり頻繁には演奏されない曲である。響きが独特ではあるが，海は子どもにとって身近でイメージしやすいといえる。ニューヨーク・フィルハーモニックはブリテンの青年期における複雑な思いや相対する感情を想起させ，主に第２曲，第４曲で用いられている音楽上の対比に焦点を当て鑑賞させる。一方ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団では第１曲の「夜明けの海」から人気のない海辺，３度間隔の波の音型，低音による破滅の予感から海の様々な様相を感じ取らせ，３つの要素を用いて編曲させる。また，ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートの最後には “Heave Ho！” を歌わせ，海と関連させた活動により，コンサートの最後に会場の一体感が得られるようになっている。

事前指導では，ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団の方は，楽譜を簡略化して身近な楽器で演奏した後, 編曲を中心としながら曲に慣れ親しむ一方, ニューヨーク・フィルハーモニックは編曲活動も行うが，オリジナルの状態を鑑賞させて音楽の構成要素を理解させたり，演奏を行う学習活動にも重きを置いている。また，小学生，及び中学生・高校生用に分けて調べ学習の課題が詳細に提示されている。何も知らずにコンサートに行き，驚きを得ることも重要であるが，事前に学習することによって無為に時を過ごすことがなく，音楽を理解しながら鑑賞し，実際のオーケストラの演奏に触れることにより，学習の定着や新たな発見による学習の深まりが得られるものと推察する。いずれの曲も，子どもたちが理解しやすいようにアプローチや事前の課題に工夫が見られるため，今後は日本の音楽の教科書で現在扱われている曲についても，海外のオーケストラの子どもを対象とした演奏会ではどのように扱われているのか調査し，指導内容やアプローチ法について明らかにしていきたい。

注

１）英国放送協会（BBC）が制作した音楽教育映画 “Instruments of Orchestra”（オーケストラの楽器）のために作曲された作品。

２）1695年，ヘンリー・パーセルによって作曲された劇付随音楽『アブデラザール』内の第２曲「ロンド」。

３）http://nyphil.org

４）1977年，カナダ系アメリカ人のエレノア・コアによって出版された『サダコと千羽鶴』。広島で被爆し，原爆の後遺症を乗り越えるために千羽鶴を折った佐々木禎子さんの実話による子ども向けの歴史小説。

５）第２主題はピーター・グライムズ(漁師)の手伝いをしている徒弟の少年が，ピーターから虐待を受けているというオペラの話と繋がっている。その後，徒弟の死により，ピーター・グライムズは村人から非難を受け，船を沈め自死する。

６）ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ（Michelangelo Merisi da Caravaggio）1571年生～1610年没。バロック期のイタリア人画家。

７）http://www.lpo.org.uk

付記
本稿は平成31年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）（課題番号：19K00222）による研究成果の一部である。